

1 章 調査の概要

1 調査の目的

本県の施策である「栃木の子どもをみんなで育てよう運動」の中に示されている「人に迷惑をかけることは『ダメ』と言おう」に関連し、「子どもの生活に関するアンケート」調査を行い、児童生徒の規範意識や実際の行動の様子、保護者の意識や家庭でのしつけ等について把握する。

2 調査の方法

(1) 抽出方法

小学校第5学年、中学校第2学年、高等学校第2学年（全日制）の児童生徒それぞれ300人程度とその保護者を想定し、学校を抽出した。

ア 県内市町村立小・中学校

市町村人口規模別、学校規模別のグループを設定し、それぞれのグループから無作為に抽出し、その学校の該当学年の1学級を対象とした。

イ 県立高等学校

全日制高校について、学区・学科別のグループを設定し、それぞれのグループから無作為に抽出し、その学校の該当学年の1学級を対象とした。

(2) 調査対象

学 年	対象 学校数	有効回答者数	
		児童生徒（男子・女子）	保護者
小学校第5学年	13	373（195・178）	338
中学校第2学年	12	361（175・186）	340
高等学校第2学年	10	390（211・179）	363
計	35	1124（581・543）	1041

(3) 調査方法

質問紙により行った。所要時間は20分程度を想定した。

(4) 実施時期

児童生徒について

平成17年7月4日（月）～夏休み前日までの期間の適当な日時を学校が定めた。

保護者について

平成17年7月4日（月）～夏休み前日までの期間に、児童生徒を通じて配布・回収した。

3 質問の構成

この調査では、 . . . の領域に分けて質問を構成した。

領域	項目数	質問内容（児童生徒）	質問内容（保護者）
家庭でのしつけに関すること	19 項目	家庭で話題になったり、家の人から言われたりすることがどれくらいあるか	その必要性や大切さを子どもと話したり、子どもに言って聞かせたりすることがどれくらいあるか
		それらのことがどれくらいできているか	子どもは、それらのことがどれくらいできているか
ルールやマナーについての善悪の判断に関すること	16 項目	小・中・高校生がそのような行動をとることをどう思うか	自分の子どもがそのような行動をとったとしたら注意するか
		周囲にそのような行動をとる人がいたらどう感じるか	自分の子ども以外の子どものような行動をとったとしたら注意するか
規範意識の向上に関すること	児童生徒 5 項目	保護者や地域の人からしかられたり注意されたりしたことの体験	自分の子どもや自分の子ども以外の子どもの、しかったり注意したりしたことの体験
	保護者 3 項目	ルールやマナーを守ろうとする意識を上げていくためにどうしたらよいと思うか	子どもたちのルールやマナーを守ろうとする意識を上げていくためにどうしたらよいと思うか

では「家庭でのしつけに関すること」、では「ルールやマナーについての善悪の判断に関すること」について、児童生徒・保護者とも共通の質問項目を2段階で質問した。質問内容は児童生徒・保護者でやや異なっている。回答はすべて選択肢とした。

では、「規範意識の向上に関すること」について、児童生徒は選択肢と記述により、保護者は記述により回答を求めた。

4 集計・分析

- (1) 回答のうち有効なものについて単純集計を行った。その結果から表やグラフを作成し、考察した。
- (2) 領域間の関係を見るためにクロス集計を行い、考察した。